

日銀の視点

借菜園の梅が開花した。園内の約100種の梅は早咲き、中咲き、遅咲きと開花時期にばらつきがあり、4月上旬にかけて咲いていくという。

コロナ禍による経済活動への影響を見ると、業種などによるばらつきが大きいことや、特に対面型サービス（飲食・宿泊サービスや対面型サービスなど）への影響が大きくなっていることが浮き彫りになってきている。

対面型サービスは、経済対

鈴木 直行

日銀水戸事務所長

対面型サービスの工夫

こうした中、県内の事業者は厳しい環境を乗り越えるため、さまざまな工夫を重ねている。そこで、対面型サービスの中でも影響が目立つ飲食・宿泊サービスでの工夫について幾つかの例を紹介した

けのメニューを充実させ、感染症の第3波の下でも前年並みの売り上げを確保する先もあるという。また、宴会も扱う飲食店では、オンラインによる宴会の場を用意し、参加者に自宅で楽しんでもらうお

もつながら取り組みとして注目を集め、想定を大きく上回る数の弁当が短時間で完売になったという。県産食材を食べることを通じて、県内農家を応援したいと考える人々は少なくないのではないか。

県内経済は当面、対面型サービス消費を中心に下押し圧力の強い状況が続きそうだ。感染症の再拡大による消費への影響の大きさや広がりについて丁寧に確認していきたい。（次回は3月13日掲載）

策の効果もあり、昨年11月前半にかけて持ち直しつつあった。その後、感染症の再拡大と、それに伴うG.O.T.O.キャンペーンの一時停止、外出・営業自粛の影響などから下押し圧力が強まっている。

一つ目は、持ち帰りや宅配を通じた新たな需要の開拓。屋食主体の飲食店では、店内では少人数・短時間で食事を済ます常連客を取り込みつつ、新たに持ち帰りや宅配向

つまみとお酒の持ち帰りセットを提供する取り組みが見られる。二つ目の工夫は、県産食材の活用。先日、県内の十数店舗の飲食店が共同購入した県産の豚肉やキャベツを使った

三つ目は、商品券の活用。このところ、職場での懇親会や社員旅行に代えて、社員に食事券や旅行券を配る企業が見られ始めている。今困っている飲食店や宿泊施設の売り上げに貢献しつつ、感染症が落ち着いた後で食事や宿泊旅行を楽しんでもらうことを可能とする取り組みとして期待できるのではないか。